

《担当者名》 江本美穂 幸村 近 田中真樹 高橋祐司 吉田 繁 丸川活司 坊垣暁之 松尾淳司 近藤 啓 高橋祐輔
遠藤輝夫 山崎智拡

【概要】

現在の日本の医療分野においては、最先端の医療情報を積極的に収集するために、臨床検査技師も、医学誌・論文での学習、論文の執筆、国際学会での発表など英語が必要とされる局面が増えてきている。そのため、医療分野に関する様々な課題をもとにリーディングを中心に演習を行い、将来的に国際的に活躍できる臨床検査技師を目指し、医療分野の英文や論文に特有な英語に慣れ親しみ、理解する。基礎的英語力と医学の専門知識を高めることで、基礎科学から最新の医学知識を学ぶ読解力の向上を目指す。

【学修目標】

- 1) 医学分野における地域的・国際的な視野で活躍するために、医療分野の英文を読み解く能力を身につける。
- 2) 医学・自然科学誌に掲載される論文の構造を理解する。
- 3) 3年次までに学んできた医学・臨床検査に関する専門科目の内容を英語論文でも理解できる。

【学修内容】

| 回 | テーマ | 授業内容および学修課題 | 担当者 |
|---|-------------------------------|---|------|
| 1 | ガイダンス 臨床検査の現場に於ける実用会話 1 | ・本講義の進め方 ・尿検査 ・血液検査 教科書：第1編 chapter1-3 | 江本美穂 |
| 2 | 臨床検査の現場における実用会話 2 | ・心電図検査 ・超音波検査 ・呼吸機能検査 教科書：第1編 chapter5-7 | 江本美穂 |
| 3 | 英語論文・国際学会の基礎知識1 | ・国際学術誌について ・英語論文検索 ・英語論文の構成 教科書：第 編 chapter1 | 江本美穂 |
| 4 | 英語論文・国際学会の基礎知識2 | ・英語論文の種類 ・国際学会について ・抄録・演題登録 教科書：第 編 chapter1 | 江本美穂 |
| 5 | 文献の読み方1 | ・医学英語の語源（ギリシャ語由来、ラテン語由来） ・接頭辞、接尾辞 ・発音と綴り ・さまざまな臓器系統の英語 キーワード：語源、接頭辞、接尾辞、発音、綴り | 幸村 近 |
| 6 | 文献の読み方2 | ・急性骨髄性白血病 ・血液学的検査に関する英語表現 教科書：第 編 chapter2 英語アラカルト | 田中真樹 |
| 7 | 文献の読み方3 | ・アルブミン ・血液生化学検査に関する英語表現 教科書：第 編 chapter2 英語アラカルト | 高橋祐司 |
| 8 | 文献の読み方4 | ・尿検査 | 吉田 繁 |

| 回 | テーマ | 授業内容および学修課題 | 担当者 |
|----|----------|---|------|
| | | ・尿検査に関する英語表現 教科書：第 編 chapter2 英語アラカルト | |
| 9 | 文献の読み方5 | ・病理学 ・病理学に関する英語表現 キーワード：Lung、Pancreas | 丸川活司 |
| 10 | 文献の読み方6 | ・甲状腺機能亢進症 ・免疫血清検査に関する英語表現 教科書：第 編 chapter2 英語アラカルト | 坊垣暁之 |
| 11 | 文献の読み方7 | ・グラム染色 ・細菌学的、微生物学的検査に関する英語表現 教科書：第 編 chapter2 英語アラカルト | 松尾淳司 |
| 12 | 文献の読み方8 | ・病理学 ・病理学に関する英語表現 キーワード：General pathology、Gastrointestinal tract、Breast | 近藤 啓 |
| 13 | 文献の読み方9 | ・ライト染色 ・血液学的検査に関する英語表現 教科書：第 編 chapter2 英語アラカルト | 高橋祐輔 |
| 14 | 文献の読み方10 | ・ASTおよびALT ・血液生化学検査に関する英語表現 教科書：第 編 chapter2 英語アラカルト | 遠藤輝夫 |
| 15 | 文献の読み方11 | ・A型肝炎 ・免疫血清検査に関する英語表現 教科書：第 編 chapter2 英語アラカルト | 山崎智拡 |

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

定期試験 100%

【教科書】

奈良信雄・西元慶治著 「臨床検査技師のための医学英語 実用会話・論文の読み方 第2版」 医歯薬出版 2019年

【参考書】

Edward C. Klatt, Vinay Kumar 「Robbins and Cotran review of pathology 4th ed」 Elsevier Saunders, 2015

【備考】

一部クリッカーを使用した双方向型授業を行う。

【学修の準備】

3年次までにに行われた講義の教科書および配付資料などに目を通し内容を復習した上で、各項目を日本語訳して講義に臨むこと(80分)

講義で取り扱った問題の知識についてノートにまとめ、英語での専門用語表現を復習すること(80分)

【ディプロマポリシーとの関連性】

(DP1) 生命の尊重を基盤とした豊かな人間性、幅広い教養、高い倫理観を身につけている。

(DP4) 臨床検査のスペシャリストとして、進歩や変化に常に関心を持ち、生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につけている。

(DP5) 多様な文化や価値観を尊重し、地域的・国際的な視野で活躍できる能力を身につけている。

【実務経験】

幸村 近(医師)、坊垣暁之(医師)、田中真樹(歯科医師)、遠藤輝夫(臨床検査技師)、吉田 繁(臨床検査技師)、丸川活司(臨床検査技師)、近藤 啓(臨床検査技師)、高橋祐輔(臨床検査技師)、高橋祐司(臨床検査技師)

【実務経験を活かした教育内容】

病院における実務経験を活かし、将来的に国内外で活躍できる臨床検査技師を目指すために、医学分野における英語論文を読む力が現場でも活用できる事を提示しながら講義を行う。